

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成30年度相模原市子ども・子育て会議 第2回子ども・子育て支援事業計画策定部会			
事務局 (担当課)	こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)			
開催日時	平成30年9月11日(火) 午後6時から8時30分			
開催場所	相模原市役所会議室棟 1階 第1会議室			
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10名)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1)次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について ア ニーズ調査の委託業者について イ アンケート調査票について ウ 今後のスケジュールについて (2)その他 3 閉 会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〇 は委員の発言、 ● は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について

ア ニーズ調査の委託業者について

今年度実施予定のニーズ調査については、株式会社総合環境計画に業務委託することとなった。今年度中は、担当者が会議に出席し、資料や議事録の作成などの支援をいただくので、ご承知置きいただきたい。

イ アンケート調査票について

子ども食堂や無料学習塾に関する質問項目があるが、そもそもそれらを知らない人は質問に答えられないので、それぞれの内容を補足すべきではないか。

- ご指摘のとおり、各質問項目に補足を追加する。
- 「子ども食堂や無料学習塾を子どもに利用させたいか」の質問項目について、利用させたくないと回答した人にだけその理由を聞くこととしているが、利用させたいと回答した人にも、食事を目的とした人や他の人とのふれあいを目的とした人など、様々な人がいるため、その理由を聞く意義があると思う。
- 理由については、回答者の負担感を考慮して自由記載としたい。
- 「子ども食堂等に何らかの形で協力したいか」という質問項目が、ひとり親家庭の調査票には無いが、ひとり親家庭だから協力することは難しいと決めつけず、ひとり親家庭にも質問すべきではないか。
- ひとり親家庭であっても、子どもが利用しているから手伝いたいという親もいるという話を聞いたことがあるため、その質問項目はあった方がよいと思う。
- ご意見のとおり、質問項目を追加する。
- 「貧困の連鎖を断つためには子どもの進学が重要」というのは、根拠があるのか。正規雇用の話にもつながるが、進学が本当に重要なのかというのは、少し疑問に感じる部分もある。
- 学歴というより学力の問題であり、特に基礎的な学力を身につけることが大事だと思う。それについて親がどう考えているかを質問した方がよいのではないか。
- 学力の定義とは何かという問題もある。学校で教えているものが学力なのか、社会に出た時に通用するものが学力なのか。

昨年度実施した子どもの生活実態に関するアンケート調査の中では、全般的にひとり親家庭の子どもが、行きたいと思う学歴に行けないと思っている人の数が多かった。そういう結果が、給付型奨学金等の施策を、誰を対象に実施していくべきかということにつながって行くと思う。

是非つなげていただきたい。どれだけの支援が相模原市にできるのか、やはり質問したことをつなげていかなければならない。

高校については、国の施策として既に授業料が無償化されているが、授業料以外にもお金はかかるので、その部分について、返還の必要がない給付型の奨学金制度を今年度から実施しており、昨年度の調査結果を施策につなげている。既に実施している施策であるので、この質問項目は必要ないという考え方もある。ご意見をいただきたい。

- 「奨学金などの制度を知っているか」という質問項目にした方がよいのではないか。
- 子どもの進学目標を親が持たなくてはいけないのだろうか。子どもの権利を考えると、子どものやりたい事を尊重すべきだと思うし、それを助けるのが親の役目だと思う。
- ご意見を踏まえ、「奨学金などの制度を知っているか」という質問項目に修正する。
- 児童虐待に関する質問項目だが、乳幼児期の子どもを持つ母親の集まりで話を聞いていると、普段の生活の中で、子育てについて気軽におしゃべりできる場があるかどうかが大変重要であると感じる。他の質問項目で、問題や困っている事を解決するために誰に相談するかというのがあるが、それとは違う。子育ての悩みは解決しないし出来ないことはわかっているが、そのことをただ話せる相手や場所があるかが重要であると思うので、相談先の有無とは別に、そういう質問項目を追加してはどうか。
- 実際に子どもを叩いてしまっていることを回答するのは抵抗があると思うが、そこに至るまでに何が原因であったのかを知ることが大事だと思う。おしゃべりの相手や場のように、ストレスが溜まった時に発散できる何かがあるかということ、一番知りたい。例えば、本当は家族や配偶者に話を聞いてほしかったとか、叩いたりする前の段階で何か出来ることがないのかを確認する質問項目があった方が、アンケートとしてはよいと思う。
- クロス集計をすることで、おしゃべりをする相手の有無と、叩いたりしてしまうことの相関関係をデータとして取ることもできる。
- 相模原市では子育てに関する情報を収集しにくいという話を聞いているので、

どこでどうやって情報収集しているか、質問項目を追加したい。それを把握することができれば、どのように情報提供をしていけばよいか分かるようになる。

- 「子どもがテレビやDVDをどれくらい観るか」という質問項目があるが、今はスマートフォンを観る子どもも増えているため、「スマートフォン」という言葉も入れた方がよいと思う。

- そのように修正する。

- 「子育てをする上で大切な事は何か」という質問項目については、回答できる選択肢は1つだけなのか。

- 優先順位をつけて3つ答える形にすればわかりやすいのではないか。

- そのように修正する。

- 幼児教育無償化に関する質問についてだが、来年10月から無償化が始まり、今年の10月から入園先を決めている状況で、その後このアンケートを実施する意味があるだろうか。

- 親の中には、幼稚園と保育園など、それぞれの施設の細かな違いがわからない人も結構いるように思える。

無償化になることで、幼稚園に通う子どもと保育園に通う子どもの比率に変化が生まれるかを確認するための質問項目である。子ども・子育て支援新制度になってからは施設も様々であり、無償化も制度が複雑であるため、質問の仕方が難しいという問題がある。質問項目の内容は改めて精査させていただくが、こういう趣旨の質問項目を追加するという点についてはご了承いただきたい。

- ひとり親家庭に無償化の質問項目は追加しないのか。

- 就学前児童の親を対象とした調査の中にも、ひとり親家庭は含まれることが想定され、家族構成の質問とクロス集計をしてデータを取ることもできる。質問そのものの扱いと内容を再度事務局で検討していただきたい。

保育所の利用開始時期についての質問項目は、前回の会議の時に、就労復帰に関する実態を把握した方がいいと意見があったものである。

- 親は、本当は2歳まで自分で育てたいと思っても、保育所に2歳児の空きがない状態になってしまうので、0歳や1歳から預けて就労復帰しようとする人もいると思う。

- 婚活の質問だが、これは市として打ち出したい何かがあるのか。

- 行政として、こういう分野に取り組むべきなのかという考えもあったが、昨年

の議会でも、市として少子化対策にどう取り組んでいくかというご指摘をいただいているところである。また、国においても少子化対策に予算を付けて、各自治体における婚活支援等を促進する動きがある。したがって、市としても、こういった施策を模索していきたいという趣旨である。

- そういう背景があって質問項目を設けるということで、ご理解いただければと思う。
- 「婚活」という言葉はハードルが高いように思える。特に若い世代はまだ結婚を意識しておらず、単に出会いの機会として捉えていると思う。また、出会いの機会は選択肢以外にも様々あると思うので、選択肢に「その他」を入れた方がよい。
 - 「婚活」に「(出会いの機会)」を書き添えるなどして、事務局で対応していただければと思う。
- 子どもに、「成人・就職後も相模原市に住み続けたいと思うか」という質問項目を追加するのはよいと思うが、保護者に、「子どもが市内に住み続けてほしいか」を質問する項目は必要ないと思う。それは子どもが決めることだと思う。
- 市内に住み続けるよう誘導するつもりはないが、一方で子どもへの支援が、将来的に市に還元される循環ができればよいとも思うので、現状、親がどう思っているのかを知りたい。
- 親が、子どもに市内に住み続けたいと思うのは、様々な観点からの理由があると思うので、市に対する認識を把握するために質問してよいと思う。
- 調査結果が、地元で就職する後押しになれば喜ばしい。親が子どもの将来をどう考えるかは大事なので、この質問項目は追加する方向で進めたい。
- 子どもの居場所に関する質問項目について、「自分の部屋」は「自宅」と重複しているという理由で削除されているが、性質が違うのではないか。
- 自分の部屋が無い子どももいるので区別が難しいように感じる。
- その区別は、詳細なデータが必要な時に扱う問題だと思う。ここでは「インターネット上の空間」という選択肢が加わったことが大きな変化である。
- 削除される候補となっている質問項目で、同じ質問項目でも、就学児童の親にはあって、青年男女にはないものがあるが、取扱いの違いは何か。
 - 例えば、子育て支援に関する質問項目については、青年男女はまだ子育てする時期が来ておらず、回答できないということもある。削除する質問項目については、削除する意図を確認しながら、今後も引き続き検討していきたい。
- 子どもの権利に関しては、まだ周知など足りていないと思うので、質問項目を残してほしい。

- 残す方向で検討する。

ウ 今後のスケジュールについて

- 本日いただいたご意見を反映させ、次回の会議で案を示したい。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出欠
1	荒井美由紀	相模原市立小中学校長会	出席
2	安藤抄苗	公募市民	欠席
3	遠藤靖明	公募市民	出席
4	片山知子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
5	西谷八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
6	藤井春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
7	松原充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
8	村瀬麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
9	山崎和正	相模原商工会議所	出席

部会長